

やまなし自然首都圏構想研究会 二拠点居住推進部会
第4回ワーケーションワーキンググループ概要

1. 日時

令和3年3月10日（水）14：30～16：00

2. 場所

山梨県防災新館303, 304会議室（テレビ会議システム）

3. 出席者

（座長）丸山裕貴

（委員）青柳文人、佐藤優、田中敦、浅川啓治、土屋正和、望月昌也、朝比奈伸次

（オブザーバー）若杉遼、北辻巧多郎、小林宏至、山口春菜

※五十音順（市町村は建制順）、敬称略

（県）リニア交通局 地域創生・人口対策課長、森林環境部 森林環境総務課 総括課長補佐、産業労働部 労政雇用課長、観光文化部 観光資源課 総括課長補佐、農政部 担い手・農地対策課長、リニア未来創造・推進課長（事務局）

4. 主な意見（ワーケーション推進にかかるとりまとめについて）

①これまでの議論のとりまとめについて

- ・ いろいろな自治体が企業向けの施策を実施しようとしているが、緊急事態宣言の再発令等を踏まえ、実施のタイミングについては検討が必要ではないか。
- ・ トータルでどのようにブランディングするかが重要。
- ・ 二拠点居住推進センターを中心として、企業に対して早期に積極的なプロモーションをかけることが必要。

②各主体が果たすべき基本的役割について

- ・ 「やさしいワーケーション」をキーワードに推進するにあたり、「やさしい」の位置づけを再確認し、それを具体的に打ち出すことが必要ではないか。
- ・ 企業へのアプローチにあたっては、具体的なメリットを示し、繰り返し訪問し、信頼関係を構築することが重要ではないか。

③推進にあたってのポイント・留意点等について

- ・ 企業にとっては、滞在先でどのような価値を得られるかがポイント。
- ・ 個人向けのプロモーションとしては、体験談と受入環境の情報をセットで発信することで、イメージを抱きやすくなり、効果的ではないか。
- ・ 国におけるワーケーション推進の動きにも留意すべき。
- ・ 一体的推進のために集約すべき部分と、個々で推進すべき部分をどのように考えるかが成否の大きなキーポイント。